



野焼き後の草原

春になると、阿蘇の草原では牛馬の放牧が始まります。放牧開始は「駄ゆるし」と呼ばれ、初放牧の日は馬頭観音に安全を祈願する慣わしがあ  
ります。牛が草を食べ、踏みつけることで短い草の草原が保たれます。放牧は草原を維持していくための大事な営みのひとつでもあるのです。

4月  
2008

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29 昭和の日	30			



馬頭観音に安全祈願



阿蘇草原再生協議会

平成17年12月、地元牧野組合をはじめ地域内外の人々が参加した、阿蘇草原再生協議会が設立されました。個人・団体合わせて128のメンバー（2008年3月現在）が、持続性のある草原利用と保全のしくみづくりを目指して、牧野管理、生物多様性保全、草原環境学習、野草資源活用等について様々な活動を行っています。九州地方環境事務所が事務局を担っています。



動植物の宝庫

阿蘇では1600種の植物が見られるほか、チョウや野鳥の種類も九州随一の数を誇っています。また、阿蘇の草原でしか見られない動植物がいくつも確認されています。これは、人々の営みにより守られてきた「草原」という特異な自然環境によるものです。

5月  
2008

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	1	2	3 憲法記念日
4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

草原環境学習の推進（出前講座）

地域の将来を担う子どもたちに草原の恵みや大切さ、維持のしくみを伝えるため、環境省では、環境学習のひとつとして出前講座を行っています。環境省のスタッフが講師として教室や草原に出向き、子どもたちに草原にまつわる様々なことについて教えています。昨年は、産山小、阿蘇北中、阿蘇高などの生徒たちに授業を行いました。



阿蘇の草原について学ぶ子どもたち

